

感情教育



[感情教育_下载链接1](#)

著者:中山 可穂

出版者:講談社

出版时间:2002

装帧:

isbn:9784062734349

胸のちぎれるような恋愛！

朝日新入文学賞受賞作家による書下ろし傑作長篇

それぞれに出生の闇をかかえた2人の女が出会い、宿命的なはげしい恋におちるとき、人間の感情の器は破壊され新しく甦るのではないか。至福を描く書下ろし長篇！

作者介绍:

1960年、愛知県名古屋市で生誕。早稲田大学教育学部英語英文科卒業。大学卒業後に劇団を主宰、作・演出・役者をこなすも、のちに解散となる。その5年後に会社員となるが、勤務時間を小説の執筆に費やしていた（日外アソシエーツ『新訂作家・小説家人名事典』より）。

1992年に「ルイジアンヌ」でTOKYO FMによるラジオ番組「ラヴ・ステーション」内企画第1回ショート・ストーリー・グランプリを受賞。翌1993年に、マガジンハウスへ持ち込んだ『猫背の王子』でデビュー。『猫背の王子』は、マガジンハウスへの持ち込み原稿である。当初は小さな出版社へ持ち込んだが、その編集者にマガジンハウスの編集者を紹介され、刊行に至ったという（集英社文庫『猫背の王子』解説より）。1995年、「天使の骨」で第6回朝日新人文学賞を受賞。2001年、『白い薔薇の淵まで』で第14回山本周五郎賞を受賞。2002年『花伽藍』が第127回直木三十五賞候補作品となる。

2006年夏に、鎌倉から横浜へ拠点を移して活動している（『月刊カドカワ』のエッセイより）。

女性同士の恋愛（レズビアン）をテーマにした作品が多いのが特徴。自身もレズビアンであることを公言している。しかし「フェミニズム運動、ゲイ・パレード、新宿二丁目のどれにも興味はなく、小説を執筆している時が一番楽しい」という（集英社文庫『白い薔薇の淵まで』文庫版あとがきより）。

猫好きで有名で、サインをするとき、猫のマークの中に「KAHO NAKAYAMA」と書くのが常である。

読後に「息をつめて一気に読み終えた」という感想が多く、コアなファンが多いといわれる。著者自身もそれをあとがきなどで記している。

目録:

[感情教育_ダウンロード1](#)

标签

日本文学

日本

小説

外文書

中山可穂

评论

论婚姻的恐怖

[感情教育_下载链接1](#)

书评

[感情教育_下载链接1](#)